

名 称	鹿沼市小中学校再編計画策定に向けた意見交換会(北中学区)について
日 時	令和6年4月11日(木)19時00分~20時12分
場 所	市民文化センター 大会議室
出席者	参加者:12名
内容及び 結果等	<p>&lt;事務局説明&gt;19:00~</p> <p>&lt;意見交換会&gt;19:30~</p> <p><b>【質問】</b></p> <p>骨子4ページ下部に、「意見交換・協議」とあるが、それらの結果により策定された計画に変更が生じることはあるか。</p> <p><b>【回答】</b></p> <p>意見交換は、まずは保護者へ、次に地域の方へ説明を行い、いただいた意見をもとに計画を策定していく。</p> <p>策定後については、計画にご理解をいただけるよう説明を行っていく。準備期間などの細かな部分については、地区によって多少変わる可能性はあるが、計画内容の大きな変更は想定していない。</p> <p><b>【意見】</b></p> <p>できるだけ多くの方に理解いただくための意見交換と推測するが、反対意見がでることも考えられる。この計画を10年かけて行っていくのであれば、「協議」というよりはご理解をいただく場と認識し、表現を変更してはどうか。</p> <p><b>【事務局返答】</b></p> <p>ご意見として承る。</p>
	<p><b>【質問】</b></p> <p>骨子1ページに小学校の適正規模は6~18学級とあるが、1学年1人しかいなくても6学年いれば6学級となり適正規模となるのか。</p> <p><b>【回答】</b></p> <p>児童生徒数が少ない場合、複式学級が発生するので、実際には6学級にはならない。1年生を除いて2学級で16人以下が基準だが、イメージとしては、一学年8人以下になった場合複式学級になると考えてほしい。</p>
	<p><b>【質問】</b></p> <p>小中一貫校と義務教育学校の違いはなにか。</p> <p><b>【回答】</b></p> <p>小中一貫教育は、小学校6年間と中学校3年間のつながりをスムーズに行うことが目的とされており、平成28年から新たに始まったものである。</p> <p>制度化の背景としては、小学校から中学校に進学した際の大きな変化により、学力不振や不登校となる「中1ギャップ」の解消や、身体的発達の早期化、学習内容の量的質的充実、家庭や地域の社会性育成機能の低下及びそれに伴う学校の役割の増大などがあ</p>

げられる。

両校の違いについては、義務教育学校の場合、1つの学校で小・中学校を1つの組織が運営していくもので、1人の校長と1つの教職員組織が1～9年生の教育を行っていくものである。6・3年の枠組みを4・3・2へ変更できる点や、中学校の専門性を持つ先生が小学校の授業を行えること、学校行事を小学1年生から中学3年生が一堂に会して行えるなどのメリットがある。

一方、小中一貫校については既存の小学校と中学校をそれぞれ別の組織で運営していくが、先ほど申し上げた内容を小・中学校が連携しながら実施していくものである。

北犬飼中学校は校舎改修が必要なため、義務教育学校の新設の検討を行っており、南押原地区については既存の小・中学校が隣接しているため、小中一貫校の検討を行っている。

**【質問①】**

自身も板荷の状況はよく理解している。板荷小と菊沢西小の統合は仕方のないものと思うが、板荷地区の方たちはどのような反応を示しているか。

**【質問②】**

板荷地区は、児童館・小学校・中学校が強い繋がりを持っている。小中学校の再編だけではなく、児童館・保育園等の再編も考えているか。

**【回答①】**

板荷地区は、2月21日に同様の意見交換会を行った。

保護者からは、統合へ賛同する声が多く上がっており、中には、北小への統合を望む声もあったと思う。現状に危機感を抱いており、早期の統合を望んでいる雰囲気であった。

一方、学校運営協議会からは、過去に小中一貫教育の検証を行ったことに触れた発言もあった。

過去のアンケート結果や当日の声から、保護者は統合を強く望んでいるものと受け止めているが、次回の地域住民向け意見交換会での意見等を伺いながら、計画を策定していきたい。

**【回答②】**

今回はあくまでも小中学校の再編に関する計画であることをご理解いただきたい。

しかしながら、児童館に関する問題は市全体としての共通課題と認識しており、本日もいただいた内容は、関係部署に共有させていただく。

**【質問①】**

統合の際の考えとして、規模の大きい方の学校に小さい学校がくるのか。校舎の築年数の浅い方の学校に来るのか。

**【回答①】**

市としては、総合計画や立地適正化計画などの様々な計画があり、基本的には市街地に都市機能を集約させていく考え方があ

市街地から離れると学校の規模も小さくなる傾向があることから、基本的には大きな規模の学校への統合を想定している。

【質問②】

板荷小の場合、菊沢西小への統合という認識か。

【回答②】

その通り。

【質問①】

最短で令和9年の統合とのことだが、来年・再来年に板荷小に入学する児童が菊沢西小への通学を希望した場合、許可が出るのか。

【回答①】

過去の意見交換会でも同様の意見をいただいております、検討課題として認識しています。

過去の事例として、西大芦小では特定の学年は6年生まで在籍し、それより下の学年は先に統合先となる西小学校に通学する形で保護者との合意形成がなされ、実施したケースもあった。

検討委員会の中で、きちんと議論をしたうえで、結論を出したいと考えている。

【質問②】

板荷小は板荷駅が近くにあるので、電車を使った北小への通学の可能性も考えられるが、事務局は想定しているか。

【回答②】

基本的には「学区」の考え方があり、飛び地となるような状況は想定していない。板荷からの通学には、スクールバスを利用する想定である。

【質問①】

小規模校には、小規模校の魅力があると思うが、行政としてどう考えているか。

【回答①】

小規模校のメリット・デメリットについては、調査を継続している。当初は様々な可能性を考える必要があった中で、実際に小規模校に通わせている保護者の声を拾うためにアンケートを実施した。その結果、90%以上が児童生徒数を「少ない」と感じており、70%以上が「統廃合を進めてほしい」という状態であった。

教育委員会としても、残存を希望する声が多ければ、そういった可能性を検討していく必要を感じていたが、結果として保護者が適切な規模で多くの子どもと触れ合いながら学校生活を送ることを望んでいたため、骨子案をまとめ、統合を進めていくことと判断した。

また、文部科学省から示されている学校の役割は、大きく二つある。

一つ目は、学力向上であり、もう一つが児童生徒が集団の中で触れ合うことで社会性や規範意識、思考力、表現力、問題解決能力などを身につけることである。そのために

	<p>は、一定規模の児童生徒数が確保されていること、バランスの取れた教職員が配置されていることが重要とされている。</p> <p>少子化をはじめ、子どもの遊び方や子ども同士の関わり方、核家族化による家庭内でのふれあい減少、地域コミュニティの衰退など大きな変化が生じており、学校の役割が重要となっている。教育委員会としては、一定の学校規模・児童生徒数・教職員数が確保されている学校へと再編していくことが、教育ビジョン等との整合を図る適切な事業と考えている。</p> <p>ただし、地域の方の考えも非常に大切なものであり、意見交換会で意見を伺っていききたい。</p>
	<p><b>【質問】</b></p> <p>計画策定後の動きとして、合意が形成された地域から進んでいくのか。また、同意形成にあたっては、地域住民に向けたアンケートなどを実施予定か。</p> <p><b>【回答】</b></p> <p>合意形成がされた地域から順次進めていく。</p> <p>合意形成の判断について、アンケートの実施は想定していない。計画策定後に説明等をさせていただくが、全員賛成という状況は考えにくく、地元で反対の署名や活動が起きている状況は、合意形成はされていないと捉える。そういったことがなければ、行政の責任において合意形成がされたものと判断し、統廃合を進めていく。</p> <p>～事務局から事務連絡～</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. いただいた意見は、全地区終了後、個人情報に配慮した形でHP上に掲載させていただきます。</li> <li>2. 今後のスケジュールとしては、6月までに全15地区の地域住民向け意見交換会を実施し、7月からいただいた意見を踏まえた検討を行い、9月にパブリックコメントの実施、10月に計画策定を目指している。</li> </ol> <p>計画策定後は、改めて地域に訪問して説明を予定している。</p>
	<p>&lt;閉会&gt;20:12</p>
<p>配布資料</p>	<p>鹿沼市小中学校再編計画骨子、鹿沼市の小中学校の配置図、アンケート用紙</p>